

1 / 2

燃料デブリ取り出し準備 スケジュール

燃料デブリ取り出し準備		格 子	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月以降	備 考
			圧力容器 /格納容器の 健全性維持	(実 績) ○腐食抑制対策 ・窒素バブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続) (予 定) ○腐食抑制対策 ・窒素バブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続)	検討・設計																						
		R P V / C O V 健全性維持				現場作業	(継続実施)																				
		炉心状況把握	炉心状況把握	(実 績) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続) (予 定) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続)	検討・設計	事故関連factデータベースの更新																				(継続実施)	
						現場作業	炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新																				(継続実施)
●燃料デブリの処理・処分方法の決定に向けた取り組み -燃料デブリの取り出し開始後に、燃料デブリの性状の分析を進める。		取出後の燃料デブリ安定保管	燃料デブリ性状把握	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発(生成挙動, 気中・水中移行特性) (継続) (予 定) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発(生成挙動) (継続)	検討・設計	【研究開発】燃料デブリの性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等																				(継続実施)	
						・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発(生成挙動)																				(継続実施)	
●段階的な取り出し規模の拡大(2号機) -段階的な取り出し規模の拡大に向け、研究開発とその成果を現場適用するためのエンジニアリングを進め、試験的取り出しを通じて得られる知見等も踏まえ、燃料デブリ取出設備・安全システム(閉じ込め、冷却維持、臨界管理等)・燃料デブリ一時保管設備・取出設備のメンテナンス設備の設計・製作・設置を進める。 -2号機の原子炉圧力容器(RPV)内部調査の検討を進める。		燃料デブリ臨界管理技術の開発	燃料デブリ臨界管理技術の開発	(実 績) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続) (予 定) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続)	検討・設計	【研究開発】「燃料デブリ・炉内構造物の取り出しに向けた技術の開発」の一部として実施 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発																				(継続実施)	
						・臨界防止技術の開発																				(継続実施)	
		燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 燃料デブリ収納・移送技術の開発 燃料デブリ乾燥技術/システムの開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続) (予 定) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続) 燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	検討・設計	【研究開発】燃料デブリ収納・移送技術の開発 (収納技術の開発<実機大収納缶試作と構造検証試験>、水素発生予測法の検討、水素対策の検討)																					
						【研究開発】燃料デブリ乾燥技術/システムの開発 (乾燥技術/システムの開発、水素濃度測定技術の検討)																					
					【研究開発】粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (粉状及びスラリー・スラッジの調査・保管における課題抽出、収納缶のフィルタの性能評価)																				(継続実施)		

⇒気中・水中移行試験については2021年3月末で終了。生成挙動は継続実施。